

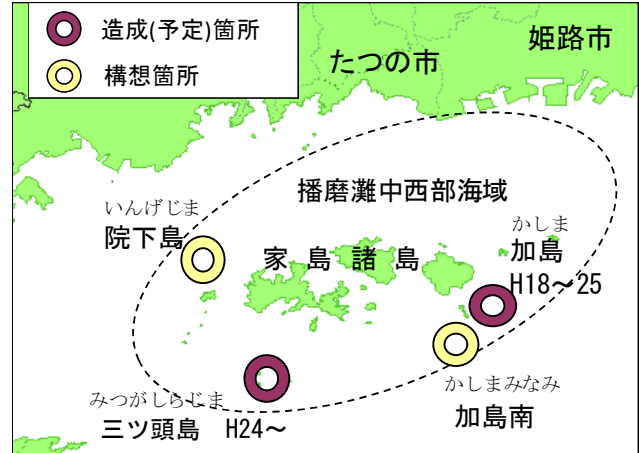
## 第2の鹿ノ瀬構想の進捗及び今後の計画

### 1 趣旨

播磨灘中西部海域は、小型底びき網や船びき網漁業、ノリ養殖業が盛んに営まれ、水産業は地域の基幹産業となっているが、この海域は単調な砂泥域が広がり、漁場に恵まれていない。

このため、天然の好漁場として知られる鹿ノ瀬等の天然礁に匹敵する大規模な漁場を石材を用いて播磨灘中西部(家島諸島周辺)の加島、三ツ頭島、加島南及び院下島の近傍に平成18年度から約20年間の計画で造成し、水産資源の増大と漁業生産の安定化を図ることとしている。

[第2の鹿ノ瀬構想造成海域]

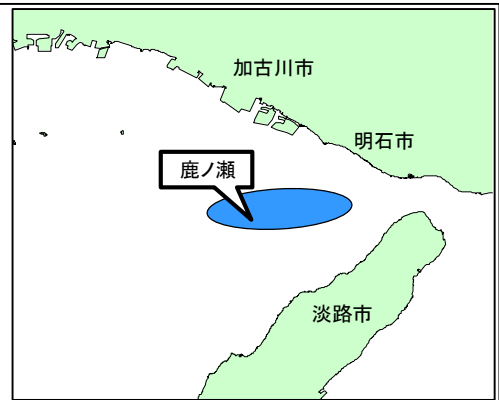


#### 【参考】鹿ノ瀬について

「鹿ノ瀬」は、播磨灘北東部に位置し、明石海峡の西側から南西方向に伸び、東西約20km、南北約5kmの範囲で、明石海峡の深場から吹き上げられた砂が堆積した天然の浅瀬。

昔、明石市林崎の雌鹿が浅瀬伝いに小豆島まで渡ったと伝えられ、名前の由来になったとされる。

海底の砂丘は、イカナゴの産卵場・夏眠場であるとともに、明石ダコや明石ダイを初めとする魚介類の宝庫となっている。



## 2 第2の鹿ノ瀬構想の進捗

(1)加島地区 石材礁の規模:108m×W53m×H16m 中詰 35,000m<sup>3</sup> 被覆 15,000m<sup>3</sup>

#### ①加島地区(先導事業)

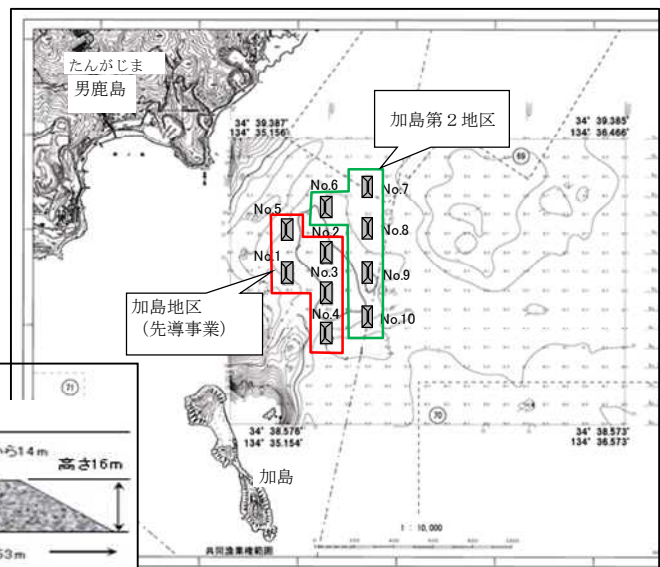
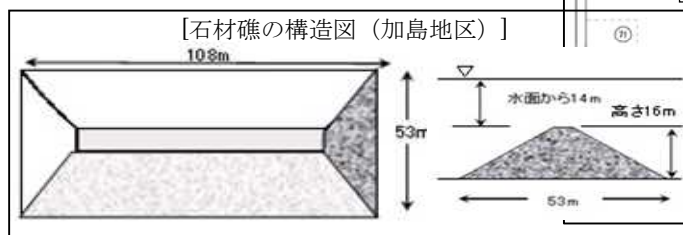
実施年度:H18~21年度

石材礁5基 事業費:879,158千円

#### ②加島第2地区

実施年度:H22~25年度

石材礁5基 事業費:728,011千円



(2) 三ツ頭島地区 石材礁の規模: L109m × W84m × H23m 中詰 60,000m<sup>3</sup> 被覆 20,000m<sup>3</sup>

① 三ツ頭島地区

実施年度 H24~26 年度

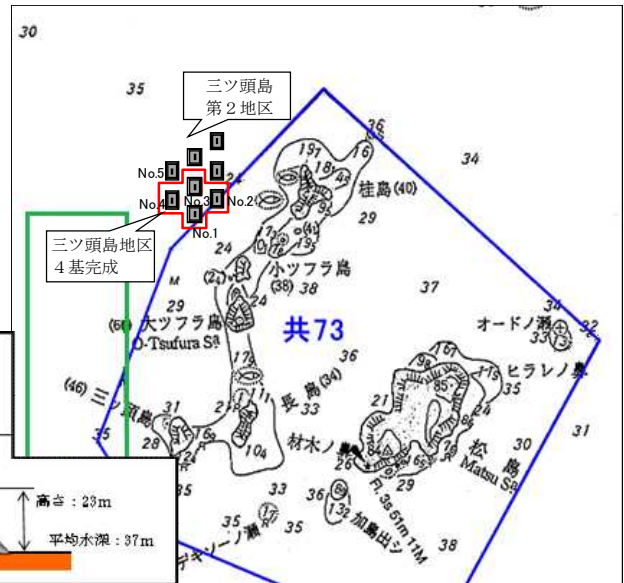
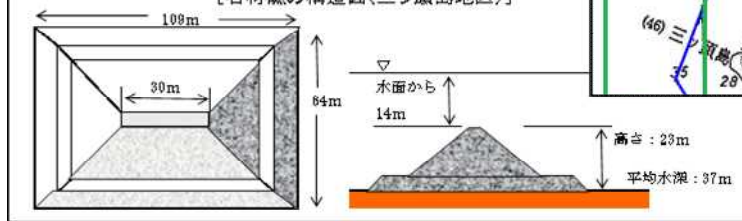
石材礁4基 事業費: 1,115,516 千円

② 三ツ頭島第2地区

実施年度: H27~30 年度(予定)

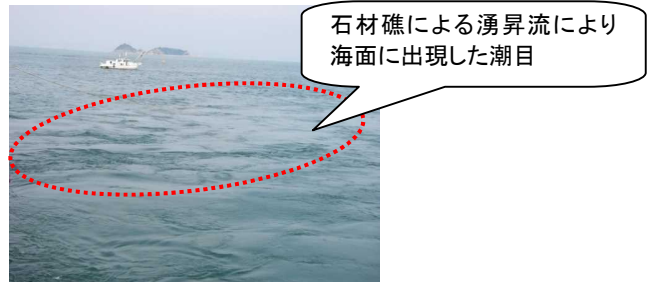
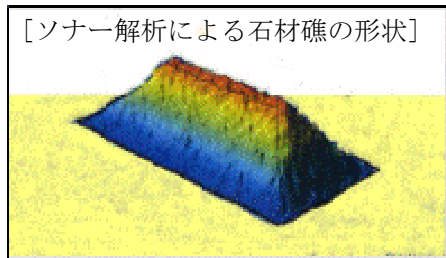
石材礁4基 事業費: 950,000 千円

[石材礁の構造図(三ツ頭島地区)]



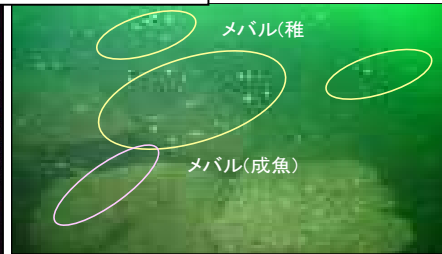
3 効果調査結果 (整備が完了した加島地区の効果)

① 石材礁の形状は良好に保たれ、湧昇流による「潮目」が海面に発生



② 頂上部付近には、カジメ等の海藻が繁茂し、稚魚の隠れ場やゴカイ等の餌生物が繁殖する良好な環境が創出され、マダイやアジ等 30 種類以上の魚類が確認されている

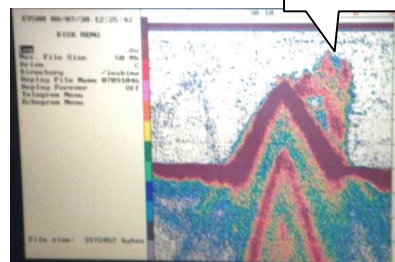
[石材礁近くのメバルの群れ]



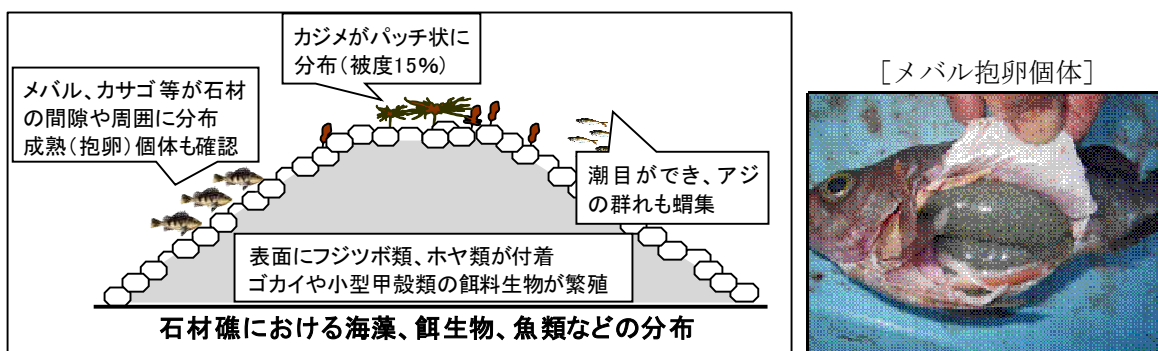
[石材で繁茂しているカジメ]



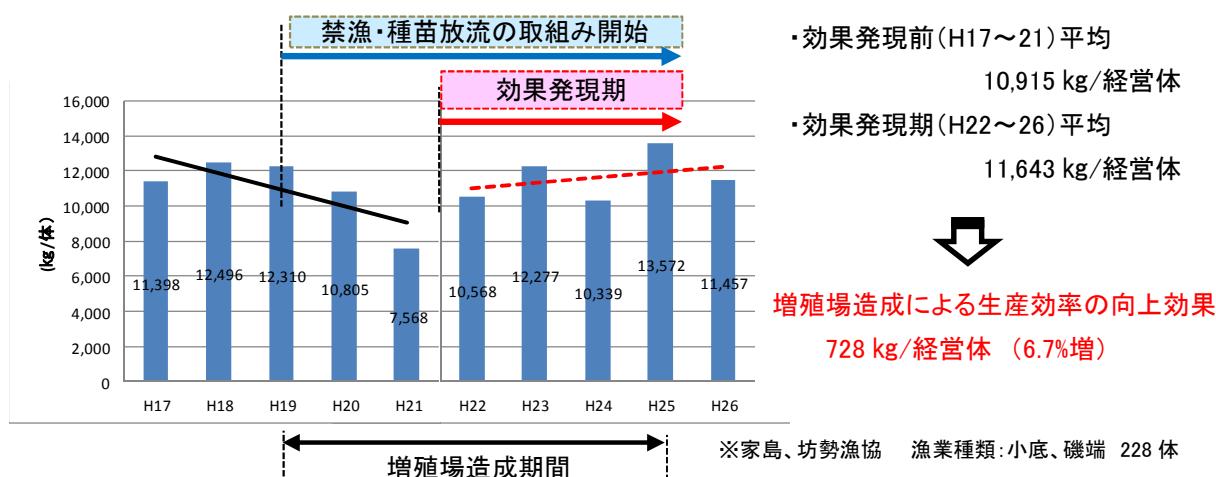
[計量魚探による映像] マアジの群



③メバルやカサゴ等定着性魚類が潜水調査で多く観察され、卵を持った親魚が採捕されたことから、再生産が行われていることも確認されている。



④漁場整備、資源管理(禁漁・種苗放流)の連携による「しみ出し効果」により、生産効率が向上し、1経営体当たりの漁獲量が増加



#### 4 増殖場の効果を維持促進するための取り組み

兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会指示により、H27年10月1日から加島地区における水産動植物の採取を全面禁止

#### 5 今後の計画について

##### ①三ツ頭島第2地区

平成30年度4基完成に向けて、早期完成を目指す

##### ②効果調査等

現在の知見では水産資源、漁場環境の変動予測に限界があるため、計画(Plan)-実施(Do)-検証・評価(Check)-改善(Action)というPDCAサイクルに従って整備を進めることが重要

加島地区、三ツ頭島地区のモニタリングを今後も実施し、次期整備予定地区である「加島南地区」の計画策定に活かす

<問い合わせ先>

農政環境部農林水産局水産課漁場整備班 TEL078-362-3480